

土砂災害を防ぎ減らすために

延岡市立延岡中学校

二年

かわはら 川原

たまたま 拓真

今年の八月終わりに発生した台風10号が僕

の住む九州宮崎県に上陸した。速度が遅く、

威力も強かった。今回の台風は、大雨や竜巻だ

けでなく多くの土砂災害も引き起こした。

〇〇県に土砂災害警戒情報が発令されま

した。やー〇〇で土砂災害が発生し多くの方

が被害にあわれました。なと様々な情報ガテ

レビギラジオから流れてきた。台風が上陸し、

通り過ぎました。た後まだ、それらの情報を知

ってゆくうちに僕は学校で学習した防災学習

を思い出した。

僕の通う中学校では、昨年学年ごとに防災

学習を行った。その中の調べた、台風、地震

など多くの災害で二次災害としてあげられてい

たのが土砂崩れや土石硫など広く一般的に土

砂災害といわれるものだ。この事実を初

めて知った際、災害が起こってからでは本

におそいなと思っただことを覚えてい

その事実を知っていたからなのか、今回の
テレビインタビューで伝えられていた土砂災害に
関する情報はとても身近に感じられた。
そんな身近に感じた情報でも僕が危機感を
覚えた情報がある。それは同じ宮崎県内の
小林市で発生した県道の道路沿いで斜面が
崩れて通行止めとなったという情報だ。まだ
復旧のめどはたっていないという。
この情報は、同じ県内というだけでなく、
通行止めとなり復旧めどがつかないというこ

とでも危機感を覚えさせられた。今年の元日
に発生した、令和六年能登半島地震で、道
路の通行止めによる孤立などの被害を知って
いたからだ。その他にも、東日本大震災な
ど数々の地震や台風で同様の被害がでていた
ことを調べて知った。
そうして調べたことで自分にも力^{チカラ}でき
るような取り組みがあるのではないかと考え
た。そこで、一番最初に現状を自分がよく知

まず、国が行っている対策について調べてみることにした。国が行っていることとして、①地すべり防止の施設の整備や監視・観測、②土砂災害警戒区域等の指定の促進、③対策施設の維持管理、④気候変動への対応、の大きく分けて四つあることが分かった。その四つの中でも①の対策に砂防ダムの設置など、②が含まれていることも分かった。また、自然災害による死者・行方不明者のうち、土砂

災害に占める割合が高いことを知った。国の対策を調べてみて僕は一つの印象を持った。それは、自分もだが対策の多くは人に知られていないと印象だ。自分自身が調べてみて初めて知ったり分かったことがとても多かっただからだ。僕は改めて対策を知ること、が危機感の緩和や安心感を得ることにつながるという意味でも大事ななと考えた。次に県や市が行っている対策についても調べてみることにした。宮崎県の場合、国が対

策で定められた区域内の自然のガけに対して、待受擁壁工と呼ばれる工法でコンクリートの擁壁の設置を行っていることとが分かった。市の対策では、延岡市の場合、市ホムページでの対策の呼びかけや土砂災害ハザードマップの作成など対策を行っていることとが分かった。県と市の対策を調べてみる、感じたことは、県や市になるにつれ、自分にとって身近な対策へなっているなと感じた。国、県、市と三つを調べてみる、国の情報が県の対策となり、その対策が市のハザードマップの作成になった。改めて被害が少なくなるようになつていくと知ることは、勉強になった。以上のことを踏まえて自分でできる対策として、多くの人のために国の対策の存在を知ってもらいたい。多くの人は現状だけでなく原因や対策まで

伝えるということを考えた。前も述べたとお
り、知ることもが不安を取り除き安心感を与え
ることになったかと考えているからである。
僕が、今回深く調べてみたことで一番驚き
を覚えたのが、土砂災害による死者、行方不
明者のうち、災害時要援護者とよばれる高齢
者や外国人の方々が約五割も占めるという事
実だ。このような方々が少しでもいなくなる
ように伝えるというにとどまらず、これか
ら土砂災害の被害が減るように考えてゆき
たいと思う。